

令和6年度 第1回和歌山市地域福祉計画推進協議会
議事要旨

<日 時>令和6年7月26日(金) 14:30～16:05

<場 所>和歌山市あいあいセンター3階 会議室第3・4

1 開会

・新委員の紹介

和歌山市人権委員会副会長 中野和夫様

・福祉局長挨拶

・会長挨拶

2 議事

【事務局】説明

(1) 第4次和歌山市地域福祉計画の進捗管理について

資料1-1 第4次和歌山市地域福祉計画について

資料1-2 第4次和歌山市地域福祉計画の進捗方法について

資料1-3 地域福祉計画の指標

資料1-4 「実施プラン」の実施状況と課題について

【議長】

資料1について、ご質問等ありますか。

これからの課題になってくるのはプログラムE、Fになってくると思います。プログラムEは地域の担い手づくりですが、例えばリーダー育成講座などの実際の実施状況や具体的が育っているのですか。そして育ってきたリーダーが、プログラムFで適材適所に積極的に地域づくりに参加していただけるための働きかけしているのですか。また複合的な課題のところの重層的な支援で、人の育ちと連動しながら連携を進めているのですか。

9ページでいくと、和歌山市全域で協議会の開催が50回となっているが、これだと年間1、2回しか行っていないところがあるので、若干動きが気になります。和歌山市外の第2層の協議体がしっかりしている自治体では1、2月に1回など定期的に集まり活発に動いており、他の地域もそれを見ながら、活性化されています。このあたりの特に第2層の協議体の進捗状況についてお聞きしたいです。

【委員】

協議体について、温度差があり、市社協が担当している協議体と事業所が担当している協議体とがかみ合っていないところがあります。事業所が持っている第2層は地域への働きかけがされていないので、

働きかけをしていただきたいです。どうかしてほしいと市社協をお願いしているのですが、難しいと
のことで言われています。市社協と事業所がそれぞれ持っている協議体に対して、もう少し行政として
指導をしてほしいので、第5次に行く前に見直してください。

【議長】

事務局いかがでしょうか。

【事務局】

この件に関して、以前からご意見としてうかがっています。協議体が明確になっていない部分とかで、
うまく機能していない部分があることは聞いています。頂いたご意見については、関係課で協議しつつ
整理していきたいと検討しています。

【議長】

引き続き検討をお願いします。

他の自治体では、協議体が一定の速度で進んでいるわけではないが、ばらつきがないようチェックして
います。行っていく中で先導する協議体が出てくると思いますので、その協議体が全体を引っ張ってい
き、他にあわせて下がないように工夫をしていただきたいです。

【委員】

検討しているとのことですが、うちの地区の第2層はここ何年も第2層の役目をしておりません。第2
層の担当のところに行っても、指導しないといけないという責任感を持っていません。第2層はお金だ
けもらって、地域に対して働きかけがされていません。

【議長】

これは地区の皆様が感じているご意見だと思います。他はいかがでしょう。あとで振り返ってお気付
きの点がありましたら、よろしくをお願いします。

続きまして議事（2）「各種アンケート等報告について」、資料2を使って、事務局をお願いします。

【事務局】 説明

（2）各種アンケート等の報告について

資料2-1 アンケート報告書

資料2-2 福祉施設・NPO団体ヒアリング調査報告書

資料2-3 地域の絆づくり交流会報告書

【議長】

議事（２）「各種アンケート等報告について」、何かありますか。

福祉施設やNPO団体も資料２－１の７ページで、プログラムE、Fの実施状況が進んでいるとは思えないという結果といただいていますので、先ほど出た課題が表れているのではないかと思います。

もう一つ気になるのが、資料２－２の５８ページ、６０ページの子どものアンケート調査で「ボランティア活動をしたことがない」というところで、理由がきっかけや関心がないという結果から、子どもに対する福祉教育のアプローチを根底から見直さないといけない状況にあるのだと思います。そういうところも第５次の計画の中で意識をしながら施策づくりに取り組んでいただきたいと思います。

他にお気づきの点等はございますでしょうか。

【委員】

絆づくりのほうに参加させていただいた者です。自分の地域の会議は参加できず、他の地域の会議に、他の地域はどのような感じだろうと参加させていただきました。そこで自己紹介をしたい際に、全部役職名で自己紹介されており、役職持ちの方ばかりで一般の方がおらず、どれだけ地域みんなの考えが入っているのかと思いました。

もう一つ、参加した会議が、場所的に高齢化が進んだ地域で、若い方がおらず、民生委員の方も規定数に達していないことを心配される熱心な方が多かったのですが、この先、地域が衰退していくしかないのではと不安に思っている方も多かったです。参加している方はどうにかしたいと思っているが、解決策が自分たちだけでできるのだろうかというままで会議が終わった気がします。和歌山市でも地域性があると思います。コロナ禍で元通りにならない溝ができてしまったと思う方が非常に多く感じました。福祉計画は目に見えないところが多いと思いますが、人が少なくなっているから、高齢化しているから無理ではなく、子どもも入れての中長期的の人づくりをじっくり考えていき、１、２年で数値で表れるものではないところを見て、やっていくことが、私たちの視点でも必要だと思います。

【議長】

ありがとうございます。委員がおっしゃった意見に強く賛同します。長期的な視野で、人をどう育てていくのかはとても大事だと思います。コロナ禍で失ってきたものを自覚してどう埋めていくか考え、その中でリモートなどできるようになったものもあるので、長所短所を生かしながらどのように進めていくかという視点が大事だろうと思います。他にお気づきの点等がありますか。

それでは議題（３）「第５次地域福祉計画策定について」をお願いします。

【事務局】説明

（３）第５次和歌山市地域福祉計画の策定について

資料３－１ 施策体系・骨子（案）について

資料３－２ 地域活動事例集（案）について

【議長】

資料3-1は第5次に向けて、骨子や施策体系の見せ方をいろいろな調査報告を反映して変更したものです。こちらについてご意見をいただきたいです。

概要版では活動事例集とセットになっており、大勢の方が見られるものです。掲載させたところのモチベーションが上がることで、これから地域活動を始めたい人への案内になるので、自分たちの活動に役に立つと非常に好評です。

前回に出た活動はどのくらいでしたか。

【事務局】

70いくつです。

【議長】

前々回も70、80出てきていたので、選定委員会を開く必要があります。選定委員会については、私に一任していただき、このメンバーの中から数人選ばせていただきます。

お気づきの点はありますか。

参加と協働のプロジェクトで、弱いプログラムと強いプログラムをイメージながら3つに置いていき、下に柱を入れていったので、施策としては上から下に流れる形でかなり分かりやすくなったと思います。よろしければこれで進めさせていただきたいです。

それと再犯防止が福祉の分野で関わりが多くなっているので、入れさせてもらっています。

【議長】

それでは議事(4)「その他」ということで、委員の方から1人ずつご意見をいただきたいです。

【委員】

自治会の衰退、弱体化がコロナ禍で加速した気がします。私が住んでいる自治会の構成人数がだんだん減ってきており、地域の連携も緩くなってきています。先ほどからいろいろ聞かせていただいて、内容は非常にいいと思いますが、実態に合わないような気がします。

【委員】

小学校校長会から来ていますので、民生委員・児童委員の方にはお世話になっています。今日のお話を聞いて地域のつながりが大切だと思い、子どもたちの地域を愛する心を育てていかないと感じました。

また小学生のアンケート結果から、ボランティアについては、小学校でも力を入れて教育していきたいと思いました。

今日はいろいろと意見をいただき、ありがとうございました。

【委員】

自分は障害のほうと関係がありますので、災害時における地域の助け合いについては、昨年度より事業所の中でも災害の時の対応も考えております。地域の中でも障害を持っている方は多く住まれており、普通の避難所では住めないという課題がずっとあるので、サポートをしていくにあたって、地域の方とコミュニティをつくっていく重要性を日々感じています。

小学生のアンケート結果も大事なことだと思っています。コロナ禍で今まで経験できたことができなかった世代がいることを感じており、それは何か欠けているのではなく、別に何か強みがあるのだと考えています。ボランティアすることに対してプラスに感じてくれる子も多くいると思うので、そういう子たちのためにも何かしていけるといいなと感じました。

【委員】

私自身は病院ボランティアをしています。ボランティアも高齢化しています。今、夏休みや冬休みで高校生が数名ボランティアできてくれているので、同じように学校のボランティア教育で進めることができたらいいと今考えています。

【委員】

コロナ禍によって、10、20代の方はオンラインでの交流会に対して意欲的な傾向にあります。このような新しい形を模索することが重要だと考えています。

【委員】

気がついたのが資料1-3のR5（最新値）が低くなっているところがあります。低くなっている理由があると思うので、カバーをできるように考えないといけないと思っています。

絆づくりの中に挨拶という話が出てきたが、それが欠如しているので、こういう話が出てくるのだと思います。生活が苦しいときは助け合うが、豊かになるとそうではなくなります。挨拶は人間として基本なので、そこを見直していくことが人間として一番大事です。目配り・気配り・心配りが大事にしていけないと、人間としての繋がりが無くなってしまう気がします。

グループ活動について、会員が少なくなっていて、運営ができなくなるという話が出てきています。これからはいろいろなグループと協働していくことを考えていかなければいけないと思います。

【委員】

どの家庭も共働きが増えています。ボランティアや絆づくりは、生活に余裕がないと目がいけないと思います。高齢者になると時間ができ参加していただけるのですが、老老介護で外に出れない人もいます。老人福祉施設協議会のほうで協力してもいいですし、和歌山市と協力して困ったところを救い上げていきたいと思っています。

交流会に参加者は役職がついている方が多かったです。そういう方は時間に余裕があり、意見を言える方が多いのだと思います。その中で、自治会で一番大切にしているものがお祭りでした。仕入価格の高くなり、大きさも小さくなっていると感じており、祭りを存続させるために和歌山市にも協力していただき

たいと思います。

【委員】

10年前なら自治会の5年副会長をやりましたら、次は会長という形でしたが、今はやってくれる人がほとんどいません。自治会の集まりもなくなってきており、地域のつながり・交流がなくなってきています。もう少し外に出て、話ができる社会にしていけたらと思います。

【委員】

資料3-1について、令和2年の数値を直近の数値としてだしているのはなぜですか。現状の和歌山市の人口は35万人を切っており、そこをスタートにするのはおかしいと思います。

「増やします」や「強くします」という言葉があるのですが、具体的にどうするのですか。主語をつけていただいたほうが、説得力があると思います。

福祉・ボランティアを強化していくには、人材の確保がメインとなってきます。今、和歌山市の民生委員が欠員補充して713人、欠員が18人となっており、和歌山市の場合は250世帯で民生委員1人という目安があるが、実際は約5,000世帯を他の民生委員が補っていないといけない状況です。そのため負担が大きく、募集をかけてもなり手がいません。人口減・少子化・核家族化・高齢化の中で、地域力が確かに弱ってきていますが、そこでボランティアを増やして活性化して、幸せづくりに持っていくのは無理なのではという気がしましたので、今後、ご検討いただけたらと思います。

【委員】

自治会においては、地域の各種団体の横のつながりを強くしていこうとしています。日ごろから人の集まる機会を多くするために呼びかけをし、自治会に入っていない方にも、嫌がられますが、入っていただくように積極的にお願いをしています。

【委員】

地区社協のアンケートの返送率が低くなっていたことがショックでした。地区社協としては、原点に戻って、地域福祉のことを勉強し直す必要があると思いました。

有功地区では、連自治会と地区社協が手を組んで5地区やっていくことになっています。毎年行っている「いさお夏祭り」は子どもたちにも参加をしてもらうために校長先生にもお願いをしていますが、参加が暗礁に乗り上げている学校もあり、どのように開拓していくかを考えているので、教育委員会の方には校長先生がもっと地域へ働きかけをするように、指導していただきたいです。

あわせて新たな地域資源を活用しながら地域を活性化していくことが、関わっている者の役目だと思います。中学生などの担い手づくりは学校にもお願いしたいです。そして新たな地域資源を活用していくために行政の方々のご協力もお願いしたいです。

【委員】

私たちの婦人会も高齢化が進んできて、老人会と婦人会の両方に参加している人が大多数となっており、新しい若い会員の参画も難しい状況です。私たち婦人会は子どもや高齢者の見守りをしながら、つながりを大切に、孤立孤独にならないような地域にするために声かけ・気配りを行っています。地域の子どもたちにも伝統行事や昔の遊びを教えたりしていましたが、コロナ禍で減り、最近また再開していています。私はできるだけ若い方と仲良くなって、つながりをたくさん作っていています。いきなりリーダーになってもらうのではなく、つながりをつくり、行事に参加してもらって、祭りなどの伝統行事を次の世代へ受け継いでいってほしいと考えています。

今後は孤立孤独無くし、つながりをつくり、他団体と協力して、地域でやっていきましょう。最近では新規勧誘の際は、他の地域の人と友達になれるように気をつけて頑張っています。

【委員】

自分は30年くらいまちづくり協議会で、どのような地域にしたいか話し合いをしてきました。最近では単身の世帯が増え、地域で世帯は増えているが人口は減っている状況です。10年くらい前に地域の子どもに、あったらいいもの・できたらいいことを発表してもらったところ、いいものがありますねという話になったのだが、大人が真剣に取り組んでこなかったために、遊びに行くところがない状態になっています。地域福祉は生活全般だと思っており、その中でどのように考えてやっていくかが大切です。人口減少はしかたがないとしても、やっていかないといけないことが多い中、諦めずにしていかないと、自分たちが住みやすい、子どもや孫たちが住みやすい街にできないと思っています。

【議長】

各委員の皆様からご意見でいい情報共有と意識共有ができたと思います。

委員の疑問で、なぜ令和2年度を直近の数値にしたのかとありましたが、それは国勢調査の最新の数値が令和2年度だからだと思います。ですが、地域は変わっていくものなので、できるだけ最新の数値にさせていただきたいです。

「します」というフレーズが分かりづらいというのがありましたが、昔の地域福祉計画はアウトプットの指標が多かったが、アウトプットだけに縛られてはいけなと考え、第3次計画からアウトカム指標を入れてきました。どのような変化率でといったところで設定していたわけですが、変化率の要因が回収されなければぼやけたままになってしまいますので、表現に関わるような重要な指標については、アウトプットとアウトカムを入れながら、着実に実行できるような指標、進捗は意識できるような指標を目指してください。ただ地域福祉計画でアウトプットがガチガチで入ってしまう計画は意味がないので、事務局も宿題として考えていただき、指標をどのように設定していくのか目配りしてってください。

議事すべて終了しました。

3 閉会